

# 令和7年度 目黒区学童保育クラブの自己チェックシート

施設名： 原町住区センター児童館学童保育クラブ

<自己チェックの進め方>	
①各施設単位で、運営の内容について確認します。	
②各チェック項目について育成支援の記録を見ながら振り返ってください。	
③その際、別紙「自己チェックリスト」にある『評価の着眼点』を目安にしてください。また、併せて「放課後児童クラブ運営指針解説書」も参考にしてください。なお、各チェック項目の設問は、運営指針の指針項目に基づいています。	
④各チェック項目を振り返った結果は、以下の要領で「結果」欄に記入してください。	
例えは「○：できている（評価の着眼点の事項が全てできている）」「△：一部できている（評価の着眼点の事項が一部できている）」「×：できていない（評価の着眼点の事項がほとんどできていない）」といった三段階でドロップダウンリストから選択してください。なお、評価の対象に当たる場合は、「—：該当しない（評価の対象に当たらない）」を選択してください。	
⑤○、△、×すべての評価について、その結果に至った理由（なお、評価が△、×だった場合は改善に向けた対策案などを）コメント欄に必ず記入してください（100字以内）。職員間で評価結果や気づき、よりよい育成支援の視点等を共有する際に役立ちます。	

## I 運営指針 総則、職員の資質向上、事業の対象となる子どもの発達に対応する項目

区分	チェック項目	結果	コメント
1 趣旨	○「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨を理解している。	○	運営指針に基づき、子どもたちの健全育成に努めている。
2 放課後児童健全育成事業の役割	○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の役割を理解している。	○	運営指針の内容を踏まえ理解している。適切な遊びや生活の場を保障し、学校、保護者、地域とも連携を図りながら支援を行っている。
放課後児童クラブにおける育成支援の基本	(1)放課後児童クラブにおける育成支援	○放課後児童クラブにおける育成支援の目的を理解している。	○ 子どもが安心して過ごせるよう、発達段階に応じた遊びや生活の場を整え、育成支援に努めている。
	(2)保護者及び関係機関との連携	○保護者や学校等の関係機関と連携している。	○ 保護者とは連絡帳、個人面談、保護者会等を通じて子どもの状況を相互に共有し、安心して子育てと仕事を両立できるよう支援している。学校等地域の関係機関とは懇談の実施や適宜情報交換を行い協力しながら、児童の対応を行っている。
	(3)放課後児童支援員等の役割	○放課後児童支援員及び補助員は、その役割を理解している。	○ 必要な知識を持ち、研修や日々の振り返り等で職員の資質の向上に努めるとともに、チームとして協力しながら運営するという役割を理解し、支援を行っている。
	(4)放課後児童クラブの社会的責任	○放課後児童クラブの社会的責任を理解している。	○ 子どもの人権に十分配慮し、常に資質の向上のため自己研鑽に励み、保護者や地域と連携を図るという社会的責任を理解している。
4 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	(1)社会的責任・職場倫理	○放課後児童クラブは社会的信頼を得て育成支援に取り組み、放課後児童支援員等は仕事を進める上での倫理を自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。	○ 地方公務員という立場も含め、職員一人ひとりがその社会的信頼を損なわないよう倫理を自覚し、職員全体で確認しながら日々の支援の向上に努めている。
	(2)法令遵守のための組織的取組	○放課後児童クラブの運営主体は法令を遵守するとともに、すべての放課後児童支援員等が職場倫理を自覚して職務に当たるよう組織的に取り組んでいる。	○ 研修やOJTを通じて育成支援の内容、職場環境、財政・事業運営を含めて法令遵守の必要性に組織的に取組み、職員一人ひとりの資質の向上と育成支援の充実に努めている。
5 要望及び苦情への対応	○子ども及び保護者からの要望や苦情に、迅速に対応する仕組みを整えて対応している。	○	日頃から子どもや保護者との信頼関係の構築に努め、要望等を受け止め、対応する姿勢を示している。要望や苦情については真摯に受け止め、所属長を含めた職員間で共有、検討したうえで、迅速丁寧な対応に努めている。
6 事業内容向上への取り組み	(1)職員集団のあり方	○放課後児童支援員等は、事業内容の向上を目指す職員集団を形成するとともに、事業内容を向上させるように努めている。	○ 子どもや保護者を取り巻く社会状況などを考慮し、事業の実施目的や課題の解決目標を共有し、意見交換を行いながら事業を運営する職員集団であることに努めている。
	(2)研修等	○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の研修機会の確保や参加できる環境を整えている。	○ 職場内外の様々な機会を捉えて資質の向上を図るために研修等の機会を充実させ積極的に放課後児童支援員に周知を図り参加を促している。
	(3)運営内容の評価と改善	○放課後児童クラブの運営主体は、子どもや保護者の意見を取り入れて自己評価を行い、その結果を公表し、事業内容の向上に生かしている。	○ 令和元年度より運営主体が実施する利用者アンケートに加え自己評価を導入することで事業内容の向上や改善を図ると共に、ウェブサイトでも結果を公表し各学童保育クラブがどのように取組んでいるかを明らかにしている。
7 子どもの発達理解	○放課後児童支援員等は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、育成支援を行っている。	○	子ども一人ひとりの状況を職員間で共有し、発達段階の理解に努めている。また、専門家や関係機関からの助言も踏まえ、子ども一人ひとりや集団全体の生活を豊かにするよう育成支援を行っている。

## II 運営指針 放課後児童クラブにおける育成支援の内容、学校及び地域との関係に対応する項目

区分	チェック項目	結果	コメント
8 育成支援の内容	(1)育成支援の内容	○育成支援の内容について理解している。	○ 育成支援の内容を十分に理解し、多様な子どもたちが共に過ごす中で豊かな生活体験を保障し、保護者が安心して子育てや仕事を両立できるよう支援している。
	(2)育成支援の留意点	○育成支援の留意点を理解し、支援を行っている。	○ 子どもの一人ひとりの思いや課題に留意し、その様子を職員間で共有し、育成支援の内容を確かめながら、職員それぞれが同じ対応をすることにより、事業や支援内容の信頼を得られるように努めている。
9 障害のある子どもの対応	(1)障害のある子どもの受け入れの考え方	○障害のある子どもの受け入れの考え方を理解し、可能な限り受け入れに努めている。	○ 運営主体の基準に則り職員を配置し、受け入れを行っている。
	(2)障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点	○障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を理解し、育成支援を行っている。	○ 障害児保育に関する研修を受講し、知識の向上に努めている。保護者、専門機関や関係機関とも連携しながら、障害児の課題を共有し、よりよい支援の内容を検討・検証しながら、育成支援に努めている。
10 特に配慮を必要とする子どもの対応	(1)児童虐待への対応	○児童虐待の早期発見の努力義務があることを理解し、保護者の不適切な養育や児童虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し、適切に対応している。	○ 日頃から子どもの様子に留意し、地域、こども家庭センター、学校サポートセンター、小学校、保育園などの関係機関と連携し早期発見に努めている。
	(2)特別の支援を必要とする子どもの対応	○家庭での養育について特別な支援が必要な子どもには、関係機関と連携して適切に支援を行っている。	○ 地域、こども家庭センター、学校サポートセンター、小学校、保育園などの関係機関と連携し適切に支援できるようにしている。
	(3)特に配慮を必要とする子どもの対応に当たっての留意事項	○特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっては、プライバシーの保護や秘密保持に留意している。	○ 個人情報や秘密保持について職員間で確認し、留意して取り扱っている。
11 保護者との連携	(1)保護者との連絡	○各種連絡手段を活用して、子どもの出欠席、遊びや生活の様子について保護者と情報を共有している。	○ 連絡帳、電話に加え「安心でんしょばと」のアプリを利用した出欠席確認及び入退室管理を行っている。連絡のない欠席などは必ず電話で確認をしている。子どもたちの様子については、連絡帳、クラフティ便り、個人面談、保護者会などを通じて情報を発信し共有に努めている。
	(2)保護者からの相談への対応	○保護者と信頼関係を築き、相談に適切に対応している。	○ 個人面談や電話相談、日々のお迎え時の挨拶や日常会話を通じて保護者との信頼関係を築いている。相談については、いつも応じる姿勢を伝え、受けた相談については適切に対応し、内容についても職員間できちんと共有している。
	(3)保護者及び保護者組織との連携	○保護者との協力関係を構築するとともに、保護者組織と連携している。	○ 保護者組織の活動が休止状態にあるが、保護者と職員の信頼関係の構築と保護者同士の繋がりの大切さを保護者に理解してもらえる機会を積極的に設けている。

12	育成支援に含まれる職務内容と運営に関わる業務	(1)育成支援に含まれる職務内容  (2)運営に関わる業務	○育成支援に係る職務を実施している。  ○運営に関わる業務を実施している。	○ ○	目黒区学童保育クラブ保育指針に基づき、育成支援の目標を設定して取り組んでいる。特に目標や年間計画については、保護者会や個人面談、クラブ便りを通じて取り組みの目的や、子どもや子ども集団の成長や課題について、随時保護者に伝えることを大切にしている。  目黒区学童保育クラブ保育指針に基づき、職員間で運営に関する事を確認しながら必要な業務を実施している。
13	学校との連携	(1)学校との連携	○情報交換や情報共有、学校施設の利用等、学校との連携を図っている。	○	学校行事への参加、学級担任との懇談や電話連絡など、年間を通して継続的かつ積極的な連携に努めている。
		(2)学校との連携におけるプライバシーの保護	○学校との連携にあたって、個人情報や秘密保持について予め取り決めている。	○	運営主体は同じ行政であり、秘密保持やプライバシーの保護といった個人情報保護の観点から、ルールを守り対応をしている。学級担任との懇談では、知りえた情報について相互に秘密保持について確認してから行っている。
14	保育所、幼稚園等との連携		○情報交換や情報共有等、保育所・幼稚園等との連携を図っている。	○	障害のある児童については在園時に保育参観を行い、必要な配慮について情報の共有を行っている。また、必要な場合には迅速に懇談の機会を設け、情報共有を行うなど連携を図っている。
15	地域、関係機関との連携		○地域組織や子どもに関わる関係機関等との連携を図っている。	○	原町小学校ランランひろばの利用を通して、小学校内学童保育クラブを含めた職員との連携強化を図り、懇談も実施した。住区住民会議の例月の定例会にも参加し、事業の理解と関係の継続的な構築に努めている。
16	学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	(1)学校施設を活用して実施する放課後児童クラブ	○学校施設を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	—	
		(2)児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	○児童館を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	○	児童館機能の特性を生かした育成支援に努めると同時に、児童館職員とは毎日の打ち合わせでの情報共有に努め、放課後の居場所となるよう切れ目のない支援につなげている。さらに、児童館職員と共に乳幼児活動を含めた地域の子育て支援全般の活動にも従事している。

### III 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策に対応する項目

区分			チェック項目	結果	コメント
17	衛生管理及び安全対策	(1)衛生管理	○日常の衛生管理を適切に行うとともに、感染症の発生時における対応方針を予め定めている。	○	感染症対策を含め、施設内、備品、玩具、食器等の消毒を行っている。また、ガイドラインやマニュアルに沿って適切な衛生管理をしている。
		(2)事故やケガの防止と対応	○事故やケガを防止するための対策を講じるとともに、事故やケガの発生時における対応方針を予め定めている。	○	施設内の事故防止対策を講じると共に、発生時には適切な判断と対応ができるように危機管理マニュアルを作成している。
		(3)防災及び防犯対策	○防災や防犯に備えた対策・訓練等を日ごろから行っており、災害等の発生時における対応方針を予め定めている。	○	目黒区災害時初期対応マニュアルに則り、職場内でのマニュアルも作成し、毎月避難訓練等を実施している。
		(4)来所及び帰宅時の安全確保	○関係者と連携して、来所及び帰宅時の子どもの安全を確保している。	○	帰宅経路の安全確認や小学校PTAと通学路点検を合同で実施し、危険箇所の確認を行い、区へ報告している。また、子どもの帰宅時には随時施設外まで見送っている。

### IV 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策、放課後児童クラブの運営に対応する項目

区分			チェック項目	結果	コメント
18	施設及び設備	(1)施設	○放課後児童クラブとして求められる機能を備えた施設(専用区画)を有している。	○	育成室が放課後児童クラブの機能を備えた専用の部屋となっている。
		(2)設備、備品等	○放課後児童クラブとして求められる機能を満たすための設備や備品等を有している。	○	衛生的で安全が確保された設備を整え、生活に必要な備品、遊びを豊かにするための玩具等をそろえている。
19	職員体制	(1)職員配置	○支援の単位ごとに2人以上の放課後児童支援員等を置いている。	○	目黒区の職員配置基準に基づき、常勤職員4人、会計年度職員4人が配置されている。
		(2)育成支援の実施	○支援の単位ごとに育成支援を行っている。	○	受け入れ上限60人を1支援単位で運営している。12月1日現在54人の育成支援を行っている。
		(3)放課後児童支援員の雇用形態	○放課後児童支援員を長期的に安定した形態で雇用している。	○	放課後児童支援員が長期にわたって安心して就業できるよう、待遇改善や労働環境の整備に努めている。
		(4)勤務時間	○放課後児童支援員等の勤務時間を、開所時間の前後に必要となる時間を前提として設定している。	○	子どもの受け入れ準備、打合せ、育成支援の日誌作成、清掃、片付け、配布物等の作成、事務処理等を含め開所時間の前後に準備時間を設けるよう努めている。
20	子ども集団の規模(支援の単位)		○適切な子どもの数の規模の範囲(おおむね40人以下)で運営している。	△	区としては、現在の入所希望に対応するため、当面の間、1つのクラブにおいて70名を上限とし、それを超える場合は、2クラス等の運営ができるよう施設を整備することとしている。
21	開所時間及び開所日		○開所時間及び開所日を適切に設定している。	○	開所時間は8:00～19:00とし、開所日は、年間290日程度となっている。
22	利用開始等に関わる留意事項		○利用開始や退所に関わる留意事項を理解し、適切に対応している。	○	区として作成した利用案内を窓口、各施設等で配布し、併せて区のウェブサイトでも公開している。また、利用開始にあたっては、各施設ごとに説明会を開催し、入所案内を配布し、利用及び退所時の説明を行っている。
23	運営主体	(1)運営主体の要件	○安定した経営基盤と運営体制を有し、子どもの健全育成や地域の実情についての理解を十分に有する主体が、放課後児童クラブを運営している。	○	放課後児童クラブの運営は、育成支援の継続性という観点から、子どもの福祉について理解し、安定した経営基盤と運営体制を有する主体が安定的・継続的に担っている。また、地域の実情についても理解をしている。
		(2)運営上の留意事項	○放課後児童クラブの運営主体は、設備運営基準に定められた運営上の留意事項を理解し、運営している。	○	放課後児童クラブの運営主体の留意点6項目について理解し運営に努めている。
24	労働環境整備		○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の労働環境を適切に整備している。	○	安全管理委員会を設置し、職場環境測定、よりよい職場づくり、健康管理研修などをを行い、職場環境の整備に努めている。
25	適正な会計管理及び情報公開	(1)会計管理	○放課後児童クラブの運営主体は、適正な会計管理を行っている。	○	放課後児童クラブの公益性に照らし、保育料徴収の手続きや管理及び執行を適正に行い、執行状況報告について監査等を行い適正な会計管理に努めている。
		(2)情報公開	○放課後児童クラブの運営主体は、会計処理や運営状況について情報公開している。	○	事業内容や財務及び収支の状況について情報公開し、保護者や地域社会に対する説明責任に努めている。